

| | |
|-------|--|
| 銀行名 | 北九州銀行 |
| タイトル | 公設機関と連携した補助金申請を活用した新規融資 |
| 取組み内容 | <p>【動機（経緯）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 当行取引先 A 社は研磨加工を中心とした金属製品加工業者（融資取引なし）。 ・ 当行得意先係が訪問する中、A 社が、鉄道線路分岐器の部品加工における高速・高精度加工法による品質向上と生産性アップのため設備（マシニングセンター）の更新を計画していることを聴取。 <p>【取組み内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 当行より A 社に対し、設備投資に「平成 25 年度補正ものづくり補助金」の活用を提案、併せて事業計画書等の策定をサポートしてくれる公設機関の（公財）北九州産業学術推進機構（北九州市外郭団体。以下、「FAIS」という）と（財）福岡県産業・科学技術振興財団（福岡県外郭団体。以下、「IST」という）について説明したところ、紹介の依頼を受けた。 ・ FAIS、IST のコーディネーターと当行営業店が A 社を訪問し、補助金の説明と事業計画書策定等をサポートし、補助金申請手続きに至り（当行が認定支援機関として確認書を提出）補助金申請も採択された。 ・ この設備投資は実行に移されることになり、当行の補助金申請にかかるサポートを好感した A 社は、設備資金のうち補助金の残額を当行にて借入することとした。（補助金交付までのつなぎ融資についても当行にて借入） ・ 今後、A 社は本設備更新による利益率向上、受注増を見込んでおり、本事業の売上高増加に伴う増加運転資金についても当行に融資申込みとなる予定である。 <p>【取組みの効果】</p> <p>A 社</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国の補助金が採択され、その資金を活用した設備投資が可能となった。 ・ 本件設備投資により、生産性向上、製品品質向上および売上高増加が見込まれる。 <p>当行</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新規融資取引の開始。 ・ 本件設備投資に伴う新規融資（補助金、自己資金不足分）および売上増に伴う増加運転資金にも対応が可能。 |

| | |
|-------|---|
| 銀行名 | 北九州銀行 |
| タイトル | 北九州市と連携した地元水産業者の6次産業化支援（融資取組） |
| 取組み内容 | <p>【動機（経緯）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北九州市は6次産業化を推進しており、補助金交付や食の展示商談会の出展援助等を行い地元企業の支援を行なっている。 ・A社は、北九州市離島の漁業者8名により海産物の加工・製造販売を目的に平成25年1月に設立されたベンチャー企業で、地元特産の「わかめ」「ひじき」を加工、ブランド化して販売、地域の雇用創造や島のイメージアップを目指している。 ・平成25年3月には加工場設備資金を北九州市の補助金、日本政策金融公庫による融資にて対応した。 ・販路については、北九州市の各地の展示商談会出展援助や北九州市小中学校給食への採用により目処が立ち、原材料仕入資金について当行へ相談があったもの。 <p>【取組み内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当行は、代表者や経理担当者とヒアリングして、事業計画や資金計画、資金繰り管理もアドバイスをしながら、融資案件を検討し、北九州市制度融資「新成長戦略みらい資金（市が指定する事業において、市の補助金を受けた事業者の事業展開に必要な資金）」を活用して融資に取組んだ。 ・融資取組み後も、営業店担当者が現地（島）へ訪問し、今後の資金繰りについてアドバイスするとともに、当行グループ主催のビジネスマッチングフェアへの出店を提案するほか、経理帳簿の確認や原材料や製品、加工施設等への気付きを伝えるなどフォローして事業の安定化に向けた支援を行っている。 <p>【取組みの効果】</p> <p>A社</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資金繰りの安定と売上増加が見込まれる。 <p>当行</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北九州市制度融資を利用した新規融資取引の開始。 <p>地域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現時点では成果はでていないが、本件が成功すれば島の雇用対策にもなり、島のイメージアップに繋がる。 |

| | |
|-------|--|
| 銀行名 | 北九州銀行 |
| タイトル | 北九州市の中国拠点（上海）と連携した海外展開支援 |
| 取組み内容 | <p>【動機（経緯）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・所得水準が上昇している中国市場の中でも、特に富裕層の多い上海市エリアへの進出ニーズ（日本製品の販売）が高まっているが、当行は当該エリアに拠点が無い。 ・また、当行が本店を置く北九州市は、上海市事務所（正式名称：駐上海北九州市経済事務所）において企業の中国進出支援活動等を行っていたが、進出企業の金融面での相談ニーズの高まりに対して十分な対応ができていなかった。 ・北九州市より上海市事務所への行員派遣要請があり、当行も地元企業の中国ビジネス支援強化のため、同事務所へ行員を出向派遣している。 <p>【取組み内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北九州市上海事務所は、北九州市関連の中国進出企業や進出検討企業、中国との貿易取引を強化したい企業に対して、現地情報の交換、商談先取次ぎ等の支援活動を実施。 ・当行は、上海でのビジネスを検討・拡大の意向を持つ取引先企業を同事務所に取り次ぎ、同事務所と連携した海外展開支援（貿易決済や現地金融等のアドバイス）を行っている。 ・具体的事例のひとつとして、平成26年1月に日本酒の海外輸出に力を入れている取引先に対して、日本酒販売代理店との「中国総代理店契約」締結や上海日本料理店への日本酒納入における側面支援、現地日系百貨店開催の「九州・沖縄フェア」への商品展示の斡旋等を行った。 <p>【取組みの効果】</p> <p>当行</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当行にとっては、情報拠点として北九州市上海事務所が補完的な役割を果たしており、より幅広い地域への海外進出支援が可能となったほか、現地法人の情報を入手したうえで国内親会社と面談することで、国内親会社とのリレーションも深めることが可能となった。 <p>北九州市</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北九州市にとっては、市内企業の海外進出支援の厚みが増した。 |

| | |
|-------|---|
| 銀行名 | 北九州銀行 |
| タイトル | カードポイント交換による売上高増強支援への取組み |
| 取組み内容 | <p>【動機（経緯）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 当行取引先 A 社（地元百貨店）はハウスカード利用の活性化を販売促進策の一つとしている。カード会員の多くが女性であり、50～70代の中高年層が半数を占める会員構成の幅を広げ、顧客層を拡大することが課題。 ・ 一方、当行取引先 B 社（地元航空運送業）は、マイレージ会員のマイルが貯まる仕組み、交換商品の見直し等によるマイレージ会員の強化を課題としていた。 ・ これまで、A 社から B 社へマイル交換商品を提供するなど、販促活動の共同実施の実績があり、両社が提携を更に進めることによってカード利用を活性化させ売上向上に結びつく企画を共同実施できないか、当行を交えて検討を行った。 <p>【取組み内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ B 社マイレージ会員は男性中心、30代～40代が大半を占め、両社は相互補完的な会員構成であることから、連携効果が期待できる「A 社のカードポイント」と「B 社マイル」の相互交換サービスを、平成 25 年 8 月 1 日より開始した。 ・ また、当行が取扱うクレジットカード「ワイエムカード JCB」のポイントで A 社のカードポイント、B 社マイルへ交換するサービスも同時にスタートした。 <p>【取組みの効果】</p> <p>ポイント交換によるカード利用の活性化</p> <p>< 当行 ></p> <p>ワイエムカードのポイント交換商品拡充によるカード利用者の利便性向上により、カード利用の拡大が期待できる。</p> <p>< A 社、B 社 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ワイエムカードのポイントで、両社のポイントへ交換するカードユーザーは、交換先での利用意思を持っており、両社の売上増加に寄与できる。 ・ 一定の割合でポイント失効があるが、カードポイントやマイルの交換商品多様化がポイント活用の活性化および、カード利用の増加につながる。 |

| | |
|-------|---|
| 銀行名 | 北九州銀行 |
| タイトル | 事業転換に関する支援を取組んだ事例 |
| 取組み内容 | <p>【動機（経緯）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ A社は、数十年前にビジネスホテルを開業、地場中堅クラスのホテル業者であった。数年前に、事業拡大を図るため、2棟目のビジネスホテル建設を計画し、当行融資により建設用地を取得した。 ・ その後、競合他社の進出による既存ホテルの稼働率低迷等、事業環境の悪化により、ビジネスホテル建設計画を見直さざるを得なくなった。協議の結果、最終的に住宅型老人ホーム兼賃貸ビル建設に計画を変更、一昨年に当行融資により建物完成し、新規事業を開始した。 ・ しかしながら、新規事業の実績は、当初計画を下回ってスタート、更に、既存ビジネスホテルは老朽化しており、当該事業継続のためには、耐震補強を含めた更新投資が必要不可欠で、新規事業に専念するため、事業転換が必要な状況にあった。 <p>【取組み内容】</p> <p>メイン行として再生支援を主導し、当社の意向に基づき、以下の取組みを実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○事業計画変更支援 <ul style="list-style-type: none"> 介護事業及び賃貸ビル事業への計画変更について、当社と協議を重ね、情報提供、助言等を行い、ファイナンスを含め事業スタートに向けた支援を実施。 ○外部専門家との連携 <ul style="list-style-type: none"> 当社の選定した外部専門家と連携し、住宅型老人ホーム事業計画について、事業再生計画を策定。 ○金融支援 <ul style="list-style-type: none"> 事業計画遅延に伴う条件変更（期限延長）対応、新規融資（住宅型老人ホーム兼賃貸ビル建設資金）を取組。 ○テナント等の紹介 <ul style="list-style-type: none"> 事業開始前から、テナントを含む入居者の紹介等の支援を実施。 ○モニタリングの実施 <ul style="list-style-type: none"> モニタリング会議を毎月2回実施し、入居状況を含む計画進捗、営業施策の対応状況を確認し、対応策の助言、入居者の紹介等を実施。業績が不安定なホテル事業については、売却による財務改善策を継続的に協議。 <p>【取組みの効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事業開始時、老人ホーム部門入居率は、計画を大きく下回ってスタートしたが、当初の約定返済が可能な水準まで収支が改善した。 ・ ホテル事業については、その後、従業員の再雇用を前提に事業を売却。有利子負債の圧縮等により、財務内容・収支が改善した。 ・ 円滑な事業転換により、債務返済、事業継続の目処が立ち、経営改善意欲の一層の醸成が図られた。 |

| | |
|-------|---|
| 銀行名 | 北九州銀行 |
| タイトル | 中小企業経営改善・金融サポート会議（経営サポート会議）ほか外部専門機関を活用した経営改善支援 |
| 取組み内容 | <p>【動機（経緯）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ A社は製紙用木材チップ、菌床用木材チップの製造およびシイタケの生産販売に取り組んでいる小規模事業者。 ・ 過去、木材チップに係る大規模設備投資を行った直後に木材チップ価格が暴落する等の外部環境の影響を受けるとともに、菌床用チップ部門における価格競争やシイタケ生産販売部門における人件費等の高コスト体質を主因に事業収益が圧迫される等、諸問題を抱えていた。 <p>【取組み内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 製紙用・菌床用木材チップ製造に加え、近年は、菌床の自家生産・シイタケ栽培に取り組む等、農業・食品分野の収益を強化していたことから、当行は、外部専門家の知見を活用した経営改善計画の策定をA社に提案した。 ・ 外部専門家の導入に当たっては、福岡県信用保証協会と事前に経営改善方向性等について協議を重ねたうえで、中小企業経営改善・金融サポート会議（経営サポート会議、通称“ふくおかサポート会議”）による専門家派遣事業を活用し、食品分野にも精通した中小企業診断士の派遣を行なった。 ・ 菌床用チップ製造の収益性向上、シイタケ栽培コストの削減、シイタケの販売戦略（商品差別化、食の安全志向ほか）、経営者が考えている経営改善策の有効性等について、専門家との協議・分析を踏まえ、アクションプランの作成を行った。 ・ シイタケ栽培について、夏場の栽培生産性減退、温度・湿度・水等の最適栽培環境の開発、品質の更なる向上等、技術面の問題解決を図るため、当行は、北九州市の外郭団体で支援機関の北九州産業学術推進機構（「FAIS」）、福岡県の外郭団体で支援機関の福岡県産業・科学技術振興財団（「IST」）を活用した問題解決をA社に提案。 ・ 上記研究機関の地域コーディネーターから繋いだ大学より、湿度・温度と生産量・品質の相関関係を究明し最適な栽培室内環境の技術を開発することで、通年で安定した生産量の確保に貢献したいとの提案があり、現在、共同研究に向けたアドバイスをを行っている。 <p>【取組みの効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 取引先が属する業界に詳しい外部専門家の知見を取り入れることで、具体的かつ実践的な経営改善提案が可能となり、実現可能性の高い経営改善計画の策定支援が可能となった。 ・ 経営サポート会議では解決困難な技術的な経営課題については、外部研究機関を活用し、深度あるサポートが可能となった。 ・ 信用保証協会との事前相談、経営者へのヒアリング、A社の現地調査、また、中小企業庁の「高度実践型支援人材育成事業」を活用した（社）福岡県中小企業診断士協会による当行向け研修の事例にA社を取り入れるなど、外部専門機関の活用を通じてOJT効果が発揮され、営業店・本部分行員の目利き能力向上に繋がった。 |

| | |
|-------|---|
| 銀行名 | 北九州銀行 |
| タイトル | コンサルティング機能の発揮に向けた人材育成 |
| 取組み内容 | <p>【動機（経緯）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中期経営計画に掲げる「お客さまから頼られるコンサルティング機能の発揮」を現場実践できる人材を育成し、多様化するお客さまニーズに対応する。 <p>【取組み内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門分野（M&A、事業再生、国際営業等）の知識習熟や実践力の向上をねらいとして、外部機関への人材派遣を行った。派遣後は、取引先支援に資する専門部署へ配置し、前述のスキルを活用している。 ・取引先企業の経営上の課題と実態を正しく把握し、適切なアドバイスや情報提供ができる能力を習得する行内研修「企業診断力養成講座」を実施した。 本プログラムは、取引先実習（無料経営診断）を含む構成としており、プロの経営コンサルタントによる直接指導により、実習先への良質な提案や受講者の実践力向上に繋がっている。 ・また、当該プログラムの受講者は所属部店や独身寮での勉強会の開催や所属部店取引先での工場見学実施等、習得スキルの拡散に加えて、グループ会社であるワイエムコンサルティングを活用して、取引先企業の経営課題解決（経営計画策定、人事制度設計等）に取り組んでいる。 ・行内研修「業種別企業研修」では、従来の医療・介護分野に加えて、製造業を取り上げた。研修ではスクーリング形式の講義だけでなく、生産管理の視点からメーカーでの工場見学を取り入れる等、より実践的・具体的なカリキュラムを構成のうえ実施した。 <p>【取組みの効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修受講者について、取引先企業の成長を支援するため、定性面の分析による実態把握や商流理解に基づく将来分析をベースとした提案を行う行動変容が確認できた。 |

| | |
|--------|--|
| 銀行名 | 北九州銀行 |
| タイトル | 地域貢献に関する各種取り組み |
| 取り組み内容 | <p>(1) 語学教育の支援活動 (継続取組、開始時期：平成 23 年 11 月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元の小中学生が英語への関心を持ち、北九州から国際社会で活躍する人材の育成を支援することを主旨として、「北九州銀行杯小中学生イングリッシュコンテスト」を開催。 ・当行開業の年である平成 2 3 年に第 1 回目を開催し、第 3 回目となる今回は、北九州市の他、福岡市や熊本市から約 1 6 0 名の小中学生が参加。 ・小学生低学年の部、小学生高学年の部、中学生の部の 3 つ部門ごとに審査を行い、決勝大会は予選を突破した 3 0 名 (各部門 1 0 名ずつ) が、英語スピーチを披露。 ・最優秀賞受賞者には、親子海外語学研修旅行を贈呈し、更なる語学研鑽を支援。 ・北九州市以外の参加者も増加し、保護者、学校関係者等様々な方面からも高い評価を得るなど、着実に定着化が図られている。 <p>(2) 都市緑化支援活動 (継続取組、開始時期：平成 23 年 10 月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひまわり (北九州市の市花) の育成を通じて緑の普及・啓発を図り、郷土愛を育むことを主旨として、「ひまわり B I G リコンテスト」を北九州市と協力して開催。 ・北九州市内小学校 8 校が参加し、特別賞として 2 校にテントを贈呈。 ・北九州市を通じた学校長懇談会等での PR 活動により、定着化が図られている。 <p>(3) スポーツ支援活動 (継続取組、開始時期：平成 24 年 2 月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元唯一のプロスポーツチームであるギラヴァンツ北九州 (サッカー J2 リーグ) のオフィシャルスポンサーとして、市民の皆様と一体となって応援し、地域の活性化を支援。 ・また、当行主催試合を開催するとともに、北九州市教育委員会を通じて、地元北九州市内の小中学生 80 名を招待した。 ・この他、売上金の一部がギラヴァンツ北九州の支援金となる飲料自動販売機 (通称：ギラベンダー) を北九州エリア各本支店 13 店舗に設置している。 <p>(4) 節電・CO2 削減活動 (継続取組、開始時期：平成 23 年 10 月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クールビズ・ウォームビズ、毎月 1 回の一斉消灯日・ノーマイカーデーなどを継続実施し、北九州市ノーマイカー推進運動にも参加。 ・また、北九州市より当行の環境問題等への取組が評価され、平成 26 年 5 月に北九州市「グリーンフロンティア表彰」を受賞した。 <p>(5) 清掃による街並み美化活動 (継続取組、開始時期：平成 24 年 4 月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心のかようあたたかな社会作りを目指し、青少年の心の育成事業などを展開する「小さな親切運動」北九州市本部に加入している。 ・当行では、北九州市内各所で行われる「日本列島クリーン大作戦」に毎年継続して参加しており、清掃活動による街並みの美化に取り組んでいる。 |